

## 騒音



理事 山口 千晴

新聞やテレビ、ネット等でご存知のように「保育園の子どもの声」が原因で深刻なトラブルが持ち上がっている例が報道されています。このことは今初めて起きたわけではなく、以前から新規に保育園を建設・開園した経験のある理事長、園長先生方には苦労された向きも少なくないと思われます。超過密都市東京だけの事情、というわけでもなく全国的な傾向のようです。外国でも同じような問題があると聞きます。また保育園・幼稚園ばかりでなく小学校等でも運動会などの行事や部活動時に苦情電話が入るといったことも珍しいことではないそうです。子どもたちが日常的に集まる施設には最早必ず発生する事象と言っていいかもしれません。一方の当事者となる可能性があるわれわれ園長にとって、「社会の希望の存在である子ども、その声」が病気や仕事の都合（夜勤者等）のある方から「騒音」と決め付けられることはつらいことです。なぜこのようなことになってしまうのか、あたかも加害者と被害者のように対立し訴訟に発展するケースまで見られるまでにこじれるのか。抜本的な解決の方法はないのか、悩みつきない状況に陥っているようです。どちらの言い分も尤もだし、理解もできると思われます。

子どもの声だけでなく、行事や送迎時等の園から発生する音や不都合とされる事象、その結果引き起こされる事態、解決策等々については多くのメディアが取り上げていますので、ここでは改めて触れませんので、そちらをご覧ください。

さて、市内では保育園は一たび設置されると簡単に転居はできませんし、閉園・廃園もレアケースです。園児はほとんど半径3～5キロ(?)圏内から通ってきます。園児の供給源はこの狭い地域に限られると思われれます。存立の基礎はこの地域社会に立脚しています。保育園は個人でも法人でもこの地域住民の一人です。地域の他の構成員と顔と顔を突き合わせ、名前を覚え、覚えてもらう関係性が必須です。特に園長等管理者は園の代表として地域社会・コミュニティにいやでもかかわりを持たざるを得ません。同じ地域に居住する場合は尚更です。昔、ある方から園長をするなら町会・消防団・PTA・法人会には必ずはいること、と言われたことがあります。私はまじめに聞いてえらい目にあいましたが(いまでも続けています)、地域が保育園をどうみているのか、地域と良好な関係を保つためには園がどう地域に開いていくのか大変勉強になりました。また自分の孫のへたな(?)ピアノは騒音ではなくこの上もない天使のメロディと相好を崩していたおじいちゃんもいました。高齢者施設の建設の時反対された方が自分が通うようになって以来、ファンとなってくれました。地域との関係の付け方は、公立小学校・教育委員会の取り組みが先行していて参考となると思います。ただし、時間はかかりますし、ややこしいことも無いことはないですが、先住・後住とか受忍限度とか角突き合わせる大人の関係を子どもはよく見ています。子どもの育つ空間・時間・仲間(サンマというそうです)を保証する立場の園長としては当然仕事の一部です。煙をもうもうとあげて焼いたサンマを肴に焼酎のお湯割りを一杯やりながらそんなことを思いました。